

令和8年度「全国学力・学習状況調査」大阪市立長吉東小学校の結果概要

長吉東小学校の児童の平均正答率は、国語が44（大阪市59）算数が40（大阪市56）である。大阪市の平均を大きく下回っている。児童の学力向上のために様々な取り組みを行っているが、成果が出ているとは言い難い。無回答率が昨年度を大きく上回っており、悪化している。特に国語では大阪市平均の3倍となっている。「わからない」とすぐにあきらめてしまうのではなく、何とかして答えを求めようとする気持ちを見童につけていきたい。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】昨年度よりも低下し、大阪市平均を下回る結果であった。正答数が5問以下の児童の割合が全国平均の2倍に達しており、下位層の割合が高いことが明らかになった。内容別では「話すこと・聞くこと」は大阪市の平均に近い値であったが、その他は平均を大きく下回っていた。特に「読むこと」は大きく下回っており、本校児童の課題であるといえる。

【算数】昨年度よりも低下し、大阪市平均を下回る結果となった。特に「図形」が課題である。本校の児童の正答率はわずか32.1%であり、大阪市平均を22%も下回っている。また、上位層の割合が低く、正答数が12問以上の児童はわずか10%であった。これは、全国平均の三分の一である。

質問調査より

「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に対し、最も肯定的な「当てはまる」と回答した児童の割合が60%に達しており、全国平均を16.4%も上回る結果であった。基本的な生活習慣の確立が課題である。朝食を全く食べない児童の割合は8.6%で、全国平均の5倍である。学校の授業時間以外に全く勉強しない児童も22.9%と高く、全国平均の4倍に達している。

今後の取組（アクションプラン）

全教職員で学力向上の取り組みを進める。①SWPBS(学校におけるポジティブな行動の支援)の実施。授業中の「学びの雰囲気」の醸成を目的に「チャイムで着席」の取り組みを継続する。②「読書活動の推進」朝の読書週間の実施、平野区読書推進事業（ひらちゃん読書ノート）の活用。③「授業の工夫」ペアやグループで話し合う活動を積極的に取り入れた授業づくり。④児童の自己肯定感を高める「朝鑑賞」（絵画）などの実施⑤「ティーチング・エンパワメント事業」「国・算 学びサポーター」の活用